

継続事業評価シート(対象:H28年度実施事務事業)

H29年度評価

事務事業名	自転車駐車場管理運営事業					事務事業コード	03805
部 名	都市建設部	課 名	まちづくり推進課	係 名	交通政策係	部課コード	050100

1. 事業概要

総合計画コード	5233				
事業年度	年度 ～ H 年度		事業類型	●ソフト事業 ○ハード事業	
法令等の義務付け	○法令等(市条例・要綱等を除く)で義務付けられている事業 ○義務と任意の両方を含んでいる事業 ●任意(市条例・要綱等を含む)の自治事務			<根拠法令等(法律、条例、要綱など)> 朝霞市自転車駐車場設置及び管理条例 朝霞市自転車駐車場設置及び管理条例施行規則	
めざす 目的成果	駅周辺に整備した自転車駐車場等の適正な管理運営が行われ、市民が快適に利用している。				
事業内容	自転車駐車場等の維持管理に伴う業務委託、修繕業務、借地駐車場の更新手続き、利用者の途中解約に伴う還付業務。				
事業手法	☐ 市の完全な直営 ☒ 委託等(請負、負担金、交付金等を含む) ☐ 市民等との協働 ☐ 補助金交付 現在、指定管理者制度に基づき、施設管理業務を指定管理者、公益社団法人シルバー人材センターに任せている。 業務の円滑化に向け、指定管理者との間で連絡調整会議を毎月実施している。				

2. 実施結果

H28年度の事業の実施内容			指定管理者と基本協定書及び年度協定書に基づき管理を実施した。								
			単位:千円		H26年度決算		H27年度決算		H28年度決算見込		
投入コスト	a 事業費[イ]～[ホ]		280,991		278,994		273,152				
	財源内訳	[イ]国庫支出金									
		[ロ]県支出金									
		[ハ]地方債									
		[ニ]その他	264,825		263,932		264,713				
		[ホ]一般財源	16,166		15,062		8,439				
	b 人件費		6,229		5,130		5,496				
総コスト(a 事業費 + b 人件費)		287,220		284,124		278,648					
投入労働量		常勤職員等(人工)		0.85 人		0.70 人		0.75 人			
		一般職非常勤職員等(時間)		350 時間				時間			
a 事業費 (H28年度決算見込)の執行内訳		需用費 16千円 役務費 300千円 委託料 242,952千円 (施設設備管理委託料 7,496千円 指定管理料 235,456千円) 使用料及び賃借料 29,879千円 償還金、利子及び割引料 5千円									
指標名			単位	H28目標・計画 (H28実績見込)		H29目標・計画 (H29実績見込)		H30目標・計画 (H30実績見込)		最終目標・計画 目標年度	
活 動	①	自転車駐車場等整備、維持管理 箇所数	箇所	10 (10)		10 ()		10 ()		10 H 32 年度	
	②			()		(—)		(—)		H 年度	
成 果	①	利用率(定期利用者)	%	100 (95)		100 (—)		100 (—)		100 H 32 年度	
	②			()		(—)		(—)		H 年度	

3. 事務事業の分析

必要性 (市が関与する必要性はあるか)	判定	☒ A 必要性が高い	☐ B 必要性がある程度認められる	☐ C 必要性が低い
	☒ 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される ☒ サービスの拡大や充実を求める意見・要望が増えている ☐ 法令等により、市に実施が義務付けられている ☐ 市が実施しないと、市民生活に深刻な影響が生じる ☐ 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で難しい ☐ その他 <説明> 交通政策全般をとりまとめ、計画及び実行するにあたり、市の関与は必要である。			
達成度 (事業の目標は達成したか)	判定	☐ A 目標よりも大きな成果が得られた	☒ B 概ね目標の成果が得られた	☐ C 目標とする成果が得られなかった
	☒ 活動指標の目標を達成した ☐ 成果指標の目標を達成した ☐ 指標に表れない事項について目標を達成した ☐ その他 <説明: 指標の達成状況及び改善等に関する達成状況を記入> 自転車等駐車場の定期利用者の利用率について、目標の利用率は達成できなかったものの多くの方に利用された。			
留意点 (政策の立案・推進に際して)	<説明: 留意した点について記入> 思いやり: 自転車駐車場の利用にあたり、女性と中学生以下の児童生徒及び60歳以上方は下段を利用するよう運用に配慮した。 参加と協働: 平成27年度に引き続き、利用者アンケートを実施し、利用者の意見を伺った。 経営的な視点: キャンセル待ちを受付けて、定期利用の空きがでたらすぐ次の利用者が利用できるよう運用した。			
見直し余地 (事業の内容、実施手法等は適切か)	判定	☐ I 見直す余地がない	☒ II 見直す余地がある程度認められる	☐ III 見直す余地がある
	☒ 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある ☒ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある ☐ サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある ☐ 受益者負担のあり方について見直す余地がある ☒ 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある ☐ 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト圧縮の余地がある ☐ その他 <説明> 指定管理者制度の趣旨に則り、適正に行われたが、一部業務(夜間の指定管理者による警備業務の委託)について経費削減できないか検討の余地がある。			

4. 今後の展開方針[課としての判断]

事業の方向性	☒ A 市で継続実施 ☐ B 休止・廃止 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ C 民営化 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ D 国・県に移譲 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ E 終了 (実施時期: ☐ H28年度まで ☒ H29年度まで ☐ H30年度まで)			
今後の取組方針	成果の方向性	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小		
	投入資源の方向性	事業費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小	
		労働費	☐ A 拡大 ☐ B 現状のまま ☒ C 縮小	
	見直しの方向性	☒ A 見直して継続 ☐ B 現状のまま継続		
		☐ 民間委託・PFI・指定管理者等を今後導入・拡大 (実施時期: H 29 年度) ☒ 業務プロセス改善 (実施時期: H 29 年度) ☐ 対象・水準等の見直し (実施時期: H 年度) ☐ 受益者負担の見直し (実施時期: H 年度) ☐ 臨時・再任用職員等の活用を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ 市民等との協働を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ その他 (実施時期: H 年度)		
方針 (次年度の改善内容等を含めた具体的な事業の展開方針)	平成29年度から平成33年度の指定管理については、公益社団法人シルバー人材センターを指定し、同センターにより施設の管理運営を実施していく。キャンセル待ち対策、3人乗り自転車対策、システム改修、施設の老朽化、夜間の警備委託、コスト削減について検討していく。			